

研究結果の概要（全研究期間分）

研究課題名：多面的アプローチを用いた高次脳機能障害患者の復職支援プログラムの開発に関する研究

熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野 准教授 橋本 衛

研究目的

高次脳機能障害は事故や病気によって脳が損傷され、認知機能障害、社会的行動障害が生じ、日常生活、社会生活に支障が生じた状態である。高次脳機能障害者に対する効果的な復職/就労支援方法はいまだ確立していな。そこで本研究では、高次脳機能障害者の持つ様々な課題を、①当事者の課題、②家族に関する課題、③サポート環境の課題に大別し、それぞれの課題に対して多面的なアプローチを実践する。そこで得られた結果を分析し、高次脳機能障害者に対する復職/就労支援マニュアルを作成する。

研究方法

熊本大学附属病院神経精神科、高知大学附属病院精神科を受診し、高次脳機能障害と診断された患者の中から、復職/就労支援を実施し、復職/就労継続の可否が確認できた 14 事例を抽出した。個々の事例の支援内容を分析し、高次脳機能障害者の復職/就労に関わる因子を検討した。加えて各分担研究者により、以下の課題に対して調査研究を実施した。

- ①発症から診断までの期間が、病態や就労、介護負担に及ぼす影響についての調査
- ②復職支援に関わる専門職、受け入れ企業における高次脳機能障害者に対する意識調査
- ③アンガーマネジメントの有用性の検証
- ④自動車運転再開支援プログラムの有用性の検証
- ⑤急性期病院における復職支援状況の実態調査
- ⑥患者家族の陰性感情が患者に及ぼす影響についての調査
- ⑦専門職育成のための研修会の企画と実態調査

事例検討から得られた治験に各分担研究者の研究成果を併せて、高次脳機能障害者に対する復職/就労支援マニュアルを作成する。

研究成果

以下の支援を組み合わせることで実施することが、高次脳機能障害者の復職/就労に有用であることが明らかになった。

①当事者へのアプローチ

- ・ 認知機能障害を詳細に評価し本人の障害の状態を明らかにする
- ・ 職業適性評価の実施

- ・ 病識の獲得を促し、障害に対する適切な対応方法を身につける
- ・ 社会的行動障害に対する薬物療法
- ・ 社会的行動障害に対する精神療法（認知行動療法、アングーマネジメントなど）
- ・ 専門職による就労後の定期面談
- ・ 自動車運転再開支援
- ・ 職業訓練の実施
- ・ 精神科デイケアの活用

②家族に対するアプローチ

- ・ 家族の感情表出（EE）の評価
- ・ 家族への心理教育とストレスケア

③サポート環境へのアプローチ

- ・ 医療、福祉、職場の就労前と就労後の密接な連携
- ・ 急性期病院に所属するリハビリスタッフへのアプローチ
- ・ ジョブコーチの活用
- ・ 企業における高次脳機能障害についての知識の啓発
- ・ 専門職（特に医師とケースワーカー）の育成

その他、就学期に受傷した高次脳機能障害者に対しては、就学中から学校関係者と連携して就労を見据えたビジョンを検討しておくこと、アルバイトの経験が障害の発見や受容に有用なことが明らかになった。さらに発達障害を合併した事例に対しては、障害特性を考慮したアプローチが必要であることも明らかになった。

結論

高次脳機能障害者の復職/就労には、当事者への支援に加えて、家族への支援、さらには職場への支援を組み合わせる多面的に実施する必要がある。加えて、高次脳機能障害の診療・評価・マネジメントを実施することができる専門職（医師、心理士、ケースワーカーなど）の養成、多職種・異業種ふくめた支援ネットワークの構築、職場を含めた一般社会における高次脳機能障害についての理解の深化が今後の課題としてあげられた。本研究結果を基に、高次脳機能障害者の復職/就労支援マニュアル「高次脳機能障害者の就労・復職支援のために」を作成し、関係各機関に送付した。

今後の展望

本研究で明らかになったさまざまな未解決課題に対してさらなる解決策を模索していくとともに、そこで得られた結果を加えた復職/就労支援マニュアル改訂版を発行する予定である。